道徳と日文 これまでも、これからも

新刊本のご案内

発売中

道徳にチャレンジ

学校の教育活動全体を通して行う道徳教育やその要となる道徳科の目標や内容，指導計画・指導方法をキャラクターがガイド。演習を通して実践的な指導力が身につきます。

石黒 真愁子　著
定価　1,800円＋税
B5判　160ページ

考え議論する 新しい道徳科 実践事例集

児童生徒が自ら道徳性を育むために，答えが一つではない課題に真剣に向き合い，考え，議論する道徳科への転換を図ることをめざした，意欲的な実践を紹介します。

鈴木　明雄
江川　登　　編著
定価　1,800円＋税
B5 判　240ページ

日文webサイトにて配信中！

「昇太師匠と考えよう」

春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。

どうする？とくだ先生！ ～マンガで考える道徳教育

道徳教育をマンガでわかりやすく解説。大好評連載中です！

道徳セミナー今期も開催！

好評をいただいております日文の道徳セミナーを今期も開催します。
詳細は2019年10月下旬頃より弊社webサイトに順次掲載しますので，ふるってご参加ください！

大阪「模擬授業で学ぶ!!　～授業が深まるポイント～」

日　時：2019年12月22日（日）13:00～16:45
会　場：AP大阪梅田茶屋町（大阪市北区茶屋町1-27 8F）
内　容：模擬授業　小学校（現場実践者の先生）
　　模擬授業　中学校（現場実践者の先生）
　　講演　島 恒生 先生（畿央大学大学院 教授）
参加費：500円（税込）

大阪のセミナーは
こちらからお申し込みください→

青森　2020年1月13日（月・祝）　初開催
東京　2020年1月19日（日）
愛知　2020年2月9日（日）

青森，東京，愛知のセミナーの
詳細はこちらからご覧ください→
https://www.nichibun-g.co.jp/seminar/

※日時，内容等は変更になる場合がございます。
最新情報は弊社 web サイトをご覧ください。

どうとくのひろば No.24

日文教育資料［道徳］
令和元年（2019年）10月15日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック

CD33480

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

No.24

こころのひろば
風呂敷に込められた日本の心＜前編＞
［久保村 正髙］…… 2

特別寄稿
いじめをなくすためにできること
［和久田 学］…… 4

見てわかる！ 道徳
「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」（小学校）
「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」（中学校）
「我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度」（中学校）
「相互理解，寛容」
［越智 貢，上村 崇，奥田太郎］…… 8

実践事例【小学校】
自分ごととして考えることのできる授業の実践
課題意識をもたせる授業展開［鈴木千栄］…… 10

実践事例【中学校】
人間としての生き方についての考えを深める
道徳授業［白川友彦］…… 12

こんなコト，聞いてみました！
心に残っている道徳の授業は？
［比嘉さつき，服部敬一］…… 14

地球の仲間からのメッセージ
命の不思議［長瀬健二郎］…… 15

本資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！　日文　検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

こころのひろば

「風呂敷に込められた日本の心」＜前編＞

日本風呂敷協会　事務局長

久保村 正髙（くぼむら まさたか）

日本風呂敷協会

風呂敷製造工程の白生地･織･染･問屋などの企業13社から構成される。

繰り返し使えて地球環境に優しく，機能的かつ優美な日本の伝統文化でもある風呂敷の活用を，あらゆる国のあらゆる世代に広めることを目的に，「風呂敷文化」に関するセミナーやラッピング教室の開催，「ふろしきデザインコンペ」への支援など，精力的に活動している。

【日本風呂敷協会ホームページ】
http://www.japan-furoshiki.jp/

長年風呂敷に携わってきた久保村正髙さんに，風呂敷と日本文化の魅力を伺いました。

―まず，風呂敷文化の歴史を教えてください。

「包」の源字

そもそも「包」の源字となった象形文字は，お母さんの胎内に胎児が宿った形を表しています。「包む」という行為自体が，物を大切にする・慈しむということなんです。だから，包むことによって内容物の価値が上がって大切に扱った。それが風呂敷の原点です。

包み布である風呂敷の歴史は古く，奈良時代にまで遡ります。正倉院蔵の舞楽衣装などの専用包みである「迦楼羅裹（かるらつつみ）」「師子児裹（ししじつつみ）」「師子幞（ししぼく）」が，現存する最も古い風呂敷（包み布）とされています。その後，四角い布の形は変わらぬまま，平安時代には「古路毛都々美（ころもつつみ）」，鎌倉時代には「平包（ひらつつ）み」と，名称が変化していきました。

室町時代には足利義満が大湯殿を建て，近習の大名が入浴するようになりました。大名たちは脱いだ衣服を間違えないように家紋入りの絹布に包み，湯から上がると包みを開いて，足を拭い，その上に座って身づくろいをしたそうです。これが「風呂敷」という名前の由来だともいわれています。

文献上で「風呂敷」という言葉が初めて出現したのは，江戸時代の徳川家康の遺産目録です。

季節を映したデザインも。夏は涼やかに。（7月撮影）

江戸時代の資料を見ると，旅人が持っている風呂敷は，もちろん抱えているものもありますが，ほとんどが背負ったり腰に巻きつけたりしています。あれは重い物を運んだり，危険に遭遇したときに両手を使えるようにしたりするためです。現在のリュックサックと同じですね。

明治時代には，布団や座布団などの嫁入り道具を運搬する包み物として使われました。もちろん通常使う風呂敷では包みきれないので，用途に合わせて大きなサイズができていきました。今はもう嫁入り道具を運ぶということ自体がなくなってきましたし，専用の布団袋もありますから，大きな風呂敷は徐々に少なくなってきています。

現在，風呂敷は「物を包んで運搬する道具」としてのみ使用されていますが，昔は寒い日には身にまとったり，足が濡れれば拭ったり，けがをしたら三角巾代わりにしたりしたでしょう。生活が豊かになり専用の物ができたから，今の用途に落ち着いただけで，風呂敷は，いざというときにはいろいろな場面で活用できます。

―風呂敷には，いろんな柄や種類がありますよね。

そうですね。風呂敷には，贈り手の気持ちを相手に伝えるという道具でもあります。だから，おめでたい物にはおめでたい柄を使って包むし，季節や用途目的によって素材・色・柄を考える。そうすることによって，お互いに豊かな気持ちになれるんですよね。

例えば，振れば何でも出てくる小槌や，夫婦円満を表す二羽の鶴は，おめでたいものの象徴として用いられます。また，菊は不老長寿の意味もありますね。菊のしずくを飲んだら長生きした，という中国の説話があるんです。

小槌

菊

悲しみごとのときなんかは，まったく逆。グレーなどの色地に，「寿」ではなく「夢」や「心」などの文字を使ったり，蓮を使ったりすることによって，相手を思いやる。こうした「おもてなし」の気持ちを形に表したものが，風呂敷だと思います。

昔は，そうしたことを幼い頃から親に教えてもらいながら生活していましたが，今は風呂敷を使う機会が少ないので，柄に込められた意味などを知る機会も少なくなりました。柄の一つひとつに意味があって，最終的にどの柄のどこを表に出るようにしようか考えながら包む。そして，言葉にしなくてもそれを持参するだけで，相手は「これだけの心配りをしていただいた」というありがたさを感じられる。こういう日本の文化があるということは知っていてほしいですね。

―やはり「贈答品を包む」というイメージから，作法などが難しそうだという印象がありますが……。

作法と言っても，「絶対」というものはないんですよ。相手がいることですし，地域によっても異なります。日本人がもつ「相手を思いやる気持ち」や「相手に不快感を与えないようにという気遣い」さえ押さえていただければいいんです。

しいて言えば，縁起の悪い「縦結び」にならないようにする。それから，着物を右前で着るのと同様に，おめでたいときは「右包み」で，悲しみごとのときには「左包み」。その区別だけです。あとは，文様の意味合いを考えて使っていただいて，意味にそぐわない使い方はしないように。それくらいです。自分の気持ちを伝えようという心さえあれば，本当に自由にしてもらっていいんです。

実際に包むのは，全然難しくないんですよ。使っていると要領がわかってくるので，包む物や目的に合わせて，どう包んだらよいかも自分で考えることができます。基本の包み方をちょっとアレンジして，「ここを結んで持ち手にしよう」とか「おしゃれな結び方にしよう」とか。これも風呂敷の特徴です。物の大きさ・形に合わせて包み込み，不便さがあれば，自由に工夫して解消する。どんな物にでも柔軟に合わせる，という日本文化の伝統の形がここに表れています。

＜次号に続きます＞

日本文教出版の教科書でも風呂敷を扱った教材を掲載しています。

●『小学どうとく　生きる力3』
P.34～37「ふろしき」
●『中学道徳　あすを生きる2』
P.154～159「包む」

撮影協力／宮井株式会社

特別寄稿

いじめをなくすために できること

公益社団法人子どもの発達科学研究所
主席研究員 和久田 学

いじめ対策が難しいわけ

いじめ防止対策推進法ができて数年が経過しましたが，いじめは減る傾向にありません。この事実が意味することは深刻です。なぜなら今の対策が，期待しただけの効果をあげていない可能性を示唆しているからです。とするならば，今，私たちがすべきことは，勇気をもって，別のやり方を考えてみることではないでしょうか。

教師を含め，多くの大人がいじめの体験者です。子どもの頃，自分が被害者だったり加害者だったりしたこともあるでしょうし，傍観者だった人もいるでしょう。教師の場合は，自分のクラスの子どもがいじめを起こしてその解決に奔走したという経験もあるかもしれません。同様に，子どもたちの多くがいじめ体験者です。

逆説的なのですが，だからこそ，いじめは難しいのです。なぜならば，いじめは皆さんがご存じの通り，さまざまなタイプ，深刻さ，状況があります。そのため，たとえ「いじめをやめよう」とみんなが同意したとしても，実はそれぞれが考える「いじめ」が違っている可能性が非常に高いわけです。だとしたら，話が思うように進むわけがありません。

法律の定義はともかく，まず，子どもたちも大人たちも「いじめとは何か」，そして「なぜいじめをなくさなければならないのか」を納得しなければ，本当の意味でのいじめ対策をとることはできません。

科学を使う

いじめが何か，そしてなぜいじめをなくさなければならないのか，それぞれが我が身を振り返りながら考えることもできます。また情緒的に，例えば「被害者が傷つくのはかわいそう」と考えることもできますし，道義的に「人としてしてはならないこと」と価値づけることもできます。

しかし，ここではあえて科学を使うことにしましょう。

なぜならば科学は，その人の考え方，文化，倫理，宗教観を超えて共有可能だからです。例えば宗教，人種，考え方，国籍が違ったとしても，「物質の最小単位は分子である」などという科学的事実は否定できません。

いじめも人によって捉え方が違うと，対策そのものが曖昧になります。こういうときこそ，科学の出番だといえます。

いじめは発達に悪影響を与える

実は，いじめをテーマにした科学的研究は，世界中で行われています。たくさんの子どもたちを対象に，いじめ被害者や加害者の特徴，いじめのメカニズムが解明されています。

いじめの定義については，世界的には，いじめ研究の第一人者であるオルヴェウスのものが有名です。前出のいじめ防止対策推進法が，いじめを「心理的又は物理的な影響を与える行為」と「その行為の対象になった児童等が心身の苦痛を感じているもの」と定義しているのに対し，オルヴェウスの定義は「相手に被害を与える行為」「反復性」「力の不均衡」の３要件からなり，いわゆる「けんか」「よくある子ども同士の争い」と「いじめ」とを分けることを提案しています。

いじめが子どもに与える影響については，深刻な報告がたくさんあります。

例えば，アメリカのノースカロライナ州で行われた研究によると，加害者は反社会的パーソナリティ障害になるリスクが，そうでない者の４倍程度とのことです。さらに，加害者と被害者の両方を経験した者は，うつ，不安障害，パニック障害，自殺企図などのリスクが，そうした経験をしなかった者より高かったのはもちろん，被害経験のみの者よりも高かったそうです。こうした研究結果は，被害者はもちろん，傍観者についても報告されており，いじめが子どもの発達に長期的に悪影響を与えることは，科学的事実であるといえます。

いじめは，情緒的にも道義的にもいけないことであるだけでなく，子どもの未来を壊しかねません。そうなると，いじめは何としてもやめさせなければなりません。

いじめ対策のデザインの必要性

では，科学的に考えると，私たちが行っているいじめ対策のどこに問題があり，どう変えるべきなのでしょうか。

最初に指摘すべきは，対策のデザインの問題です。このデザインについては，健康問題を例に挙げるとわかりやすいでしょう。

例えば，「がん」という病気について考えます。誰もが「がん」になりたくありません。国としても「がん」を減らしたいと考えています。なぜならば，「がん」患者が増えると，その人やその家族が苦しむだけでなく，医療費がかかってしまうからです。

そこで，この「がん」への対策を３つのレベルで行います。

第１レベルは，予防的取り組みです。「がん」のリスクを高めること（例えば，喫煙）や逆にリスクを下げること（例えば，緑黄色野菜を食べる）について，社会全体に啓発を行います。その結果，多くの人が禁煙したり食生活を見直したりして，結果として「がん」患者が減ることになります。

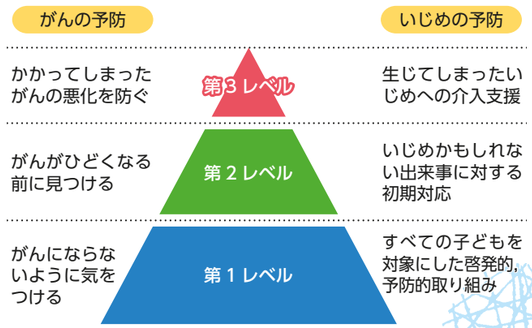
第２レベルは，早期発見早期治療です。いわゆる健康診断を義務づけ，自覚症状がないうちに「がん」を発見し，さっさと治してしまおうということです。早期であれば治療も安く早く，そして苦しまずに済みます。

そして第３レベルは，「がん」になってしまった方への治療です。研究でわかったことをいち早く治療に取り入れ，なるべく多くの人を救おうということです。

さて，こんなふうに「がん」への対策は３つのレベルで行われていますが，「いじめ」はどうでしょうか。

現在，文部科学省，教育委員会，学校，そして民間の団体が「いじめ対策」を行っていますが，そのほとんどが「いじめをどう見つけるか」「見つけたいじめにどう対応するのか」「被害者をどう救うのか」などを話題にしています。つまり，第３レベルを中心にしているのです。

これも大切なことなのですが，これだけをやっていても「いじめ」を減らすことはできません。何しろ第３レベルは，それが起こることが前提になっています。再度，いじめ対策全体のデザインを見直し，特に第１レベルと第２レベルで何をすべきなのか，明確にしなければならないといえるでしょう。



【図 1】公衆衛生学の予防の段階といじめの予防の段階

研究の必要性

ところが第１レベル，つまり「いじめを起きにくくする」ことを行うのは，とても難しいのです。なぜなら，すでに存在する「いじめ」を「解決する」という第３レベルは，結果が明確であるのに対し，「いじめがない」状況を保つ，という結果は見えにくいからです。しかも，何をすればいじめを起きにくくすることができるのか，明確ではありません。場合によっては，どんな活動でも（授業の充実も，行事をすることも）何もかもが，いじめの予防に結びつけることができてしまい，何が何だかわからなくなってしまいます。極端な話，やっていないのにやっている風を装ったり，しっかりやっているのに意識しなかったりということができてしまいます。

第２レベルも同じです。「いじめ」が起きたかどうか，わからないうちに解決してしまおうということですから，「いじめ」の定義はもちろん，何をもって解決したとするのかなどが共有されていないと，結果を明確にすることができません。

このように，第１レベル，第２レベルが難しいのですが，一方，先ほど例に挙げた「がん」への対応はすでに効果を上げています。どこに差があるのでしょうか。

答えは簡単です。「がん」についての第１レベル，第２レベルは，研究に裏打ちされた方法をとっています。例えば，喫煙が「がん」リスクを高めることを，私たちは知っています。同様に「飲酒」「脂っぽい食事」「運動不足」「ストレス」などもリスクを増やすことを知っており，逆に「緑黄色野菜を食べる」「運動をする」「規則正しい生活をする」などがリスクを下げることを知っています。これらは，誰かの意見とか偉い人の言葉ではなくて，たくさんの研究から導出されたものであり，それを利用しているだけのことです。

とすると，私たちは「いじめ」についても，科学を使って第１レベル，第２レベルを実現しなければなりません。

いじめを予防する

国立教育政策研究所内にある生徒指導・進路指導研究センターは，「いじめ追跡調査」の結果を受けて，いじめが友人関係や競争的環境などのストレスによって生じるという「いじめ－ストレスモデル」を提唱していますが，世界の研究はそれ以外にもさまざまな要因を指摘しています。

例えば，「子どものいじめの成功体験や目撃体験」「子どもの問題解決スキルの欠如」「よくない親子関係」「虐待」「体罰」「学校風土の悪さ」「モデルの存在」「シンキング・エラーの存在」などです。

指摘されてみると，どれもなるほどと思うことばかりですね。

さて，こうしたいじめに関連する因子がわかれば，あとは早いです。この因子を減らせばよいのです。

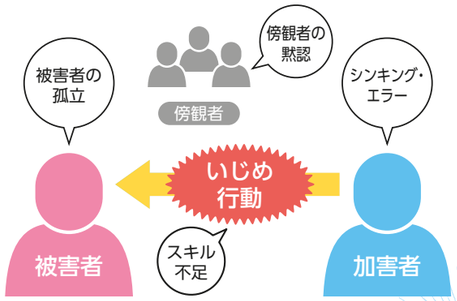
どれも大切に思えますが，ここでは，「シンキング・エラーの存在」について取り上げることにしましょう。

誰もが陥りやすいシンキング・エラー

シンキング・エラーとは，「間違った考え」を意味します。いじめの加害者が陥りやすいものであり，例を挙げると，「これは遊びで，いじめじゃない」「彼が失敗したんだから，いじめられても仕方がない」「みんながやっているからOKだ」「このくらいのことで，いじめだと騒ぐ方がおかしい」などです。

念のために確認しますが，いじめは，どんな理由があっても許されない行為です。たとえ相手に落ち度があったとしても，それを理由にいじめをしていいわけではありません。それをOKにしてしまうと，「相手が失敗したから殴ってよい」「相手が自分を傷つけてきたからやり返してよい」というような理屈を肯定することになります。

つまり，いじめ（誰かを傷つける行為）は，どんな理由があっても許されない行為であることが，今の社会のルールです。いじめの中でも，加害者側が正当性を主張する場合は，必ずそこにシンキング・エラーがあり，そうした場合，いじめが深刻化することがわかっています。



【図 2】いじめのメカニズム

シンキング・エラーへのアプローチ

いじめの行為そのものを注意することも大切ですが，その背後にある「シンキング・エラー」にアプローチしなければなりません。そこをたださないと，加害者は同じようないじめを繰り返してしまうことでしょう。

つまり，シンキング・エラーへのアプローチこそ，教育がすべきことなのです。

たぶん皆さんも経験があるでしょうが，いじめの加害者は，学校現場でそれなりの力をもつ児童生徒である確率が高いです。これは，科学的にコンセンサスを得られているいじめの定義のほとんどに「力の不均衡（つまり，加害者が被害者に比べて，立場，能力，社会性など，何らかの面で力が強い）」が含まれていることからも明らかです。

そうした力のある子どもがいじめをしてしまう背景には，単に意地悪だったりストレスの解消だったりするだけでなく，「グループをまとめたい」「友達（後輩）を指導したい」「集団で遊びたい」などの意欲があります。しかし，シンキング・エラー（そのためなら相手を傷つけてもよい，このくらいは許される，など）があるため，間違った行動をとってしまっていたわけです。つまり，シンキング・エラーをただすことは，いじめ行動をやめさせることはもちろん，対象となった子どもに正しいリーダーシップを教えるという意味で，教育的アプローチとして，非常に効果が高いと考えられます。

モデルを提供する

では，シンキング・エラーをただしたり，そうしたことを起きにくくしたりするにはどうしたらよいのでしょうか。

いろいろなやり方がありますが，その一つに「モデルの提供」という方法があります。

よく「子どもを見れば親がわかる」ということを言います。これは経験則だけでなく，実際に研究の場でも「支配的な親の子どもは，自分より弱い子どもに対して支配的な行動をとる」というようなことが確認されています。

いじめについても，同様の研究結果が出ていて，例えば「体罰を行う指導者がいる運動系の部活動では，いじめが多い」ことがわかっています。「口うるさい教師」の教室には，「ミニ先生」のように友達の問題を指摘ばかりする子どもが増え，それがいじめにつながることが指摘されています。

逆に言うならば，「正しい行動」をする大人を見ている子どもたちは，当然「正しい行動」をするようになります。シンキング・エラーも同じです。子どもはそのシンキング・エラーをどこかで学んでいるのです。

とするならば，どうすればよいでしょうか。

子どもを変えようと思う前に，私たち自身，大人が自らの行動を点検すべきではないでしょうか。

実際，私たち自身にもシンキング・エラーがあります。

「勝つためだから」と思い込んで，部活動のときに，考えられないほど理不尽な指導方法をとる部活動顧問がいます。「この子のためだから」と信じ込んで，子どもを傷つける教師がいます。いじめと同じで，たとえ教師でも，どんな理由があったとしても，子どもを傷つけてよいということはありません。まずは大人が相手を尊重し，誰かを傷つけることなく，問題を解決するというモデルを提供すべきです。

よい行動の基準にはいろいろあるでしょうが，筆者が所属する子どもの発達科学研究所が一般社団法人IWA JAPANと共に行っている「BE A HEROプロジェクト」では，次の４つの行動基準を示しています。

BE A HERO プロジェクト

「BE A HERO」に込められた想い

Help	ヒーローは，友達を助ける勇気，助けを求める勇気を持ちます。
Empathy	ヒーローは，弱者の気持ちに共感します。
Respect	ヒーローは，どんな相手も尊重します。
Open-mind	ヒーローは，心を開き，みんなを受け入れます。

BE A HERO プロジェクト　http://be-a-hero-project.com/

よい行動が増えることの影響

よいモデルがあると，子どもたちのよい行動が増えます。そうすると，結果的によくない行動が減ります。

ただし，こうした行動の変化はゆっくりと，しかし確実にあらわれます。よくない行動（例えばいじめ）が目立つのに対して，適切な行動はともすると見えにくいものです。

しかしこうした行動の変化は，「学校風土」として計測することが可能であり，この「学校風土」のよさは，いじめの予防に効果があるだけでなく，不登校や非行の予防，子どものうつや不安の予防，そして学力の向上といったことに影響することが，すでに多くの研究により証明されているのです。

いじめ対策に予防的観点を持ち込むこと，そこに科学を使うこと。これが子どもたちの今と未来を守ることになるといえるでしょう。

（さらに詳しく知りたい方は，拙著『学校を変えるいじめの科学』（日本評論社）をお読みください）

和久田 学（わくた まなぶ）

小児発達学博士。特別支援学校教諭として20年以上学校現場に携わったのち，現在は子どもの問題行動（いじめや不登校，暴力行為）の予防・介入支援に関するプログラムや教材の開発，支援者トレーニングに取り入れている。

公益社団法人子どもの発達科学研究所
http://kodomolove.org/

「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」（小学校）「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」（中学校）「我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度」（中学校）「相互理解，寛容」

監修：桃山学院教育大学　教授　越智 貢
共著：福山平成大学　教授　上村 崇
南山大学　教授　奥田太郎

伝統や文化を尊重する態度

人は，たった一人で現在だけを生きているわけではありません。私たちが暮らす日本には，四季があり，自然にも恵まれています。そして南北に細長い日本列島には，北海道から沖縄まで食文化をはじめ多様な伝統や文化が根づいています。誰もが，歴史の積み重ねのある場所で，そこで育まれた伝統や文化を共有しうる人たちとともに生まれ，暮らしています。時に，自分にとって馴染みのある伝統や文化は，その人自身を形作る重要な要素であり，それを次の世代へと引き継ぐ責任感がその人の人生を決めることもあるでしょう。人間にとって，伝統や文化は生きる上で極めて重要なものです。

しかし，社会構造が変化していく中で，見直しが求められる伝統や文化も存在します。例えば，子どもの中で長男だけを特別扱いして家督を相続させる「伝統」や，男性を支えて家事に従事することが女性の本分であるという「文化」を継承するかどうかは，検討の余地があるでしょう。伝統や文化を無批判に継承するのではなく，私たちが社会でよりよく生きるために何をどのように継承すべきかを考えることも，重要な道徳の問題の一つです。先人たちと同じく，私たちも伝統や文化の担い手であり，その内容を更新していく伝統や文化のつくり手でもあるという自覚は，そうした尊重と批判の精神と共に育まれるのです。

国を愛する態度

自分が生まれ育った地域やそこに根づく伝統や文化に愛着をもつことは自然な感情かもしれません。しかし，国に対してはどうでしょうか。「愛国心」という言葉に敷居の高さを感じる人もいるかもしれません。そもそも国を愛する態度とは何なのか，また，国とはいったい何なのでしょうか。

まず，自分が帰属意識をもつ文化的場所としての「国」と，私たちが健康で文化的な生活を営むために自身でつくりあげたシステムとしての「国家」を分けて考えてみましょう。世界選手権やワールドカップなどスポーツの国際大会で思わず日本を応援しているときや，海外旅行中に出会った現地の人との会話の中で日本を思うときなどに意識されているのは，「国」でしょう。他方で，外国への入国審査で出身地による扱われ方の違いを経験するときに意識されるのは，「国家」かもしれません。「国を愛する」という場合，前者の「国」を想起することはたやすいでしょう。では，「国家」を愛するとはどういうことなのでしょうか。

国家は，国民の健康で文化的な生活を保障するシステムとして，国民の要望を組み込んで柔軟に変化し，国民一人ひとりを支えてくれるものです。そうした国家のあり方を改善していくことは，国家を構成する主権者としての私たちの使命です。ですから，国を愛する態度とは，国家を他の人々と共によりよいシステムへと改善していく態度でもあるのです。

国や郷土を愛する態度と寛容の精神

このように考えると，郷土を愛する態度も国を愛する態度も，私たちがよりよく生活していくために何が必要かと吟味する視点が重要になります。そのためには，お互いを理解して違いを受け入れる「寛容の精神」が不可欠です。自分が住む地域だけを特別視してほかの地域の文化を否定したり，自分と同じように国を愛するべきだと迫ったりする態度は，相手の人たちの国を愛する心を傷つけるだけでなく，伝統や文化のよりよい継承の機会や国家システムの改善の機会を奪ってしまうでしょう。あなたが自分の郷土や国を愛するように，ほかの人もまた自分の郷土や国を愛しています。このことに気づいた上であなた自身が郷土や国を愛するのなら，その態度は自然な態度にとどまらず，道徳的な態度でもあるのです。

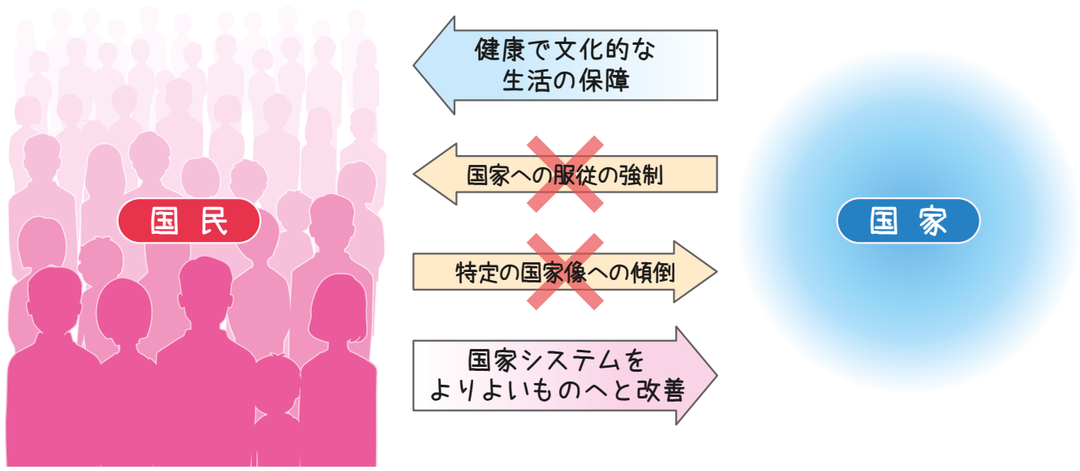


図１　国民と国家の関係性

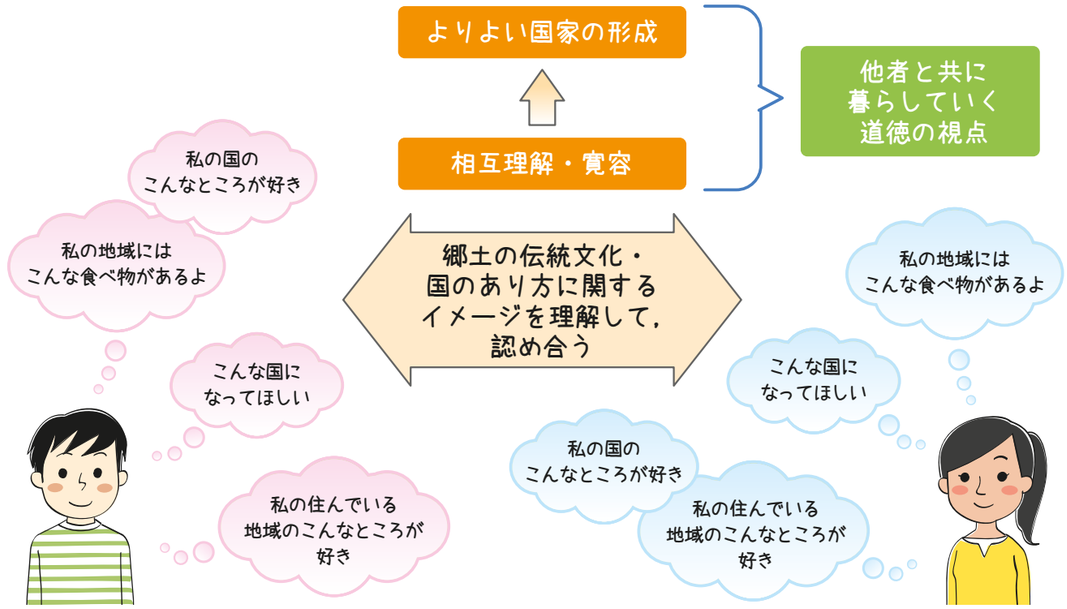


図２　郷土や国を愛する態度と相互理解・寛容

\実践事例/ 小学校

自分ごととして考えることのできる授業の実践
課題意識をもたせる授業展開

西多摩郡日の出町立大久野小学校　主任教諭　鈴木千栄

指導上の留意点及び指導の工夫

(1) 問題解決的な学習の工夫

答えが一つではなく，正解が存在しない問題について，多面的・多角的に考え，児童が主体的に自分ごととして考えられるよう課題を設定した。本時では，「『命を大切にする』とは，どのようなことなのだろう。」という課題を解決していくために，教材を通して価値について考えた。展開後段では，その答えを一人ひとりがもつことができるように展開した。

(2) 話し合いの工夫

・小集団（3人組）での話し合い。
・相互指名での話し合い。
・意図的指名での話し合い。
・話し合いやすい机の配置の工夫。

なかなか考えがまとまらない児童や発表が不得手な児童にとっても，小集団での話し合い活動をすることで自身の意見もまとまり，発表への自信をもてるようになってくると考える。小集団の意見をまとめるために話し合うのではなく，児童一人ひとりが考えをもてるようになることが目的である。小集団での話し合いの場を設けることにより，自分の考えや思いを伝え合うことができ，それにより，考えが広がったり深まったりすることもある。

全体では相互指名をしたり，意図的指名をしたりして考えを共有し合い，価値について深めさせていく。

また，本時では机を「コの字型」に配置し，互いの顔が見えやすいようにした。

(3) 書く活動の工夫

書く活動を取り入れ，考える時間を十分に確保する。書くことで自分の考えをもち，表現することができる。導入時と展開後段で取り入れることで，自分ごととして価値について考えさせるとともに，児童も教師もその変容を見取ることができ，評価につなげることができると考える。また，ノートを継続して使用することで，１年間の記録となり変容も見取ることができる。

(4) 教材提示及び展開の工夫

教材提示に際しては，効果的な場面絵を画面で提示したり，ＢＧＭを流したりすることにより，教材への共感を高める工夫をする。教師が教材を読むときは，ゆっくりと表現豊かに読む。また，本時の板書は，中心発問が中央に来るようにレイアウトを考えた。

発問で，ヒキガエルの生命に無頓着な子どもたちの心情を明らかにする。アドルフたちの心情を追って展開していくが，多面的に考えさせるためにも，ロバの気持ちや，石をぶつけられているとき，くぼみに逃げ込んだとき，ロバがよけていったときなどのヒキガエルの気持ちも，補助発問として用意しておくとよい。

展開例

内容項目：Ｄ「生命の尊さ」

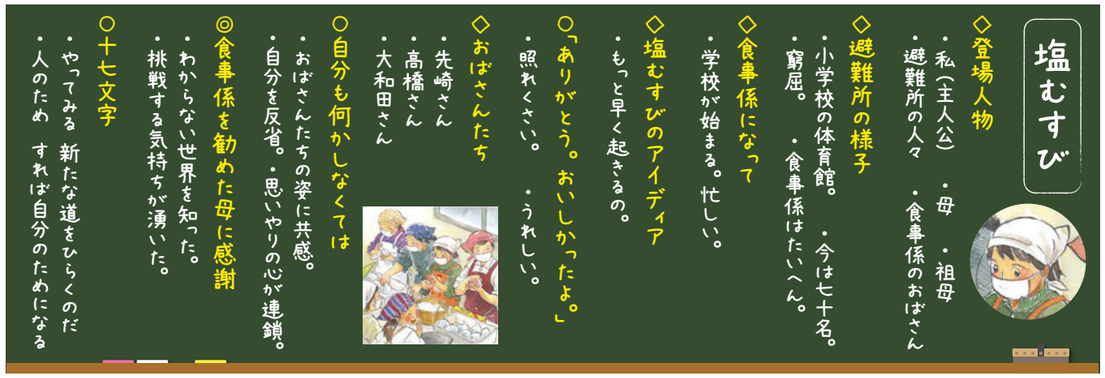
主題名	大切な命
教材名	ヒキガエルとロバ（『小学どうとく　生きる力４』日本文教出版）
ねらい	くぼみの中のヒキガエルと，遠く去っていくロバを見つめるアドルフたちの気持ちを考えることを通して，命あるものすべてを大切にしようとする心情を高める。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される児童の反応）	◇指導上の留意点　☆評価の観点
導入	**1 本時の課題をつかみ，教材への関心をもつ。** **○今日は命について考えていきましょう。** **あなたにとって「命を大切にする」とは，どのようなことなのでしょうか。**	◇価値について触れ，この時間の課題をつかませる。ノートに現段階での考えを書かせる。 ◇「あなたにとって」という発問で，自分ごととして考えさせる。
展開	**2「ヒキガエルとロバ」を読み，話し合う。** **○アドルフたちは，どんな気持ちでヒキガエルに石をぶつけたり，ロバが荷車をひいてやってくるのを見ていたりしたのでしょう。** ・よくも驚かせたな。 ・もうすぐひかれるぞ。 ・石をぶつけるより，こっちの方がおもしろそうだ……。	◇場面絵を画面に映したり，ＢＧＭを流したりして，教材に入り込みやすくする。 ◇ふざけ半分でヒキガエルに石を投げつけたり，命の尊さに気づかず，より残酷な行為を楽しんでいたりしているアドルフたちの気持ちに気づかせる。（相互指名・意図的指名）
	○くぼみの中でじっとしているヒキガエルを見つめるロバは，どんな気持ちになったでしょう。 ・かわいそうに。 ・助けてあげるよ。 ・命だから守らなければ。	◇自分も苦しい立場にありながら，ヒキガエルを助けようとするロバの気持ちを考えさせる。 ◇ロバの気持ちに共感させ，多面的に考えさせる。（相互指名・意図的指名）
	◎くぼみの中のヒキガエルと遠く去っていくロバを見つめながら，アドルフたちはどんな気持ちになったでしょう。 ・ロバはすごい。 ・ぼくたちは，ひどいことをした。 ・ヒキガエルもロバも一生懸命に生きているんだ。	◇命の大切さに気づいたアドルフたちの気持ちに共感させるようにする。 ◇小集団（3人組）で話し合い，全体で話し合う。 ☆アドルフたちの気持ちに共感できたか。（話し合いの様子・発言）
	3 自分を振り返る。 **○あなたにとって「命を大切にする」とは，どのようなことなのでしょうか。** ・どんなに小さな命でも大切にする。 ・自分勝手な行動で命を粗末にしない。 ・命を守る。	◇ノートに自分の考えを書かせる。導入で書いた自分の考えと比べさせる。（意図的指名） ☆生命がかけがえのないものであることや，生命の尊さについて考えを深めることができたか。（ノート・発言）
終末	**4 教師の説話を聞く。**	◇生き物の命には限りがあり，生きているときの時間が貴重で，失った命は二度と戻らないと実感したことを話し，余韻をもたせる。

人間としての生き方についての考えを深める道徳授業

神戸市立高取台中学校　教諭　白川友彦

◇は教材から読み取る発問　○は発問　◎中心発問



1 はじめに

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災。当時の神戸市の中学生に行ったアンケートがある。「この震災で最も強く感じたことは何か」という問いでは，第1位は「助け合い・支え合いの大切さ」であり，「地震のおそろしさ･怖さ」を上回った。また，「自分自身の反省点は何か」という問いに対しては，「ボランティアへの積極的な参加」が第1位となり，この年は「ボランティア元年」ともいわれている。2011年に発生した東日本大震災では，避難所での支援物資の運搬や清掃，小学生や小さな子どもの世話などで活躍する中学生が底力を発揮した。

自然災害の多い日本で，震災時だけではなく普段の生活においても，思いやりの心をもってお互いに助け合い支え合う心を育みたい。また，多くの人の善意により今の自分があることに気づき，感謝する心を養いたいものである。

2 時間配分を考えた効果的な指導展開

中心発問を通して，これから道徳性を高めていこうというときにチャイムが鳴ったという苦い経験が私にはある。そのためにも時間配分を考え，中心発問に重点を置いた授業展開を大切にしたいと考えた。

具体的には次のような点に留意して指導展開を行った。

・主人公になりきって考える。
・自覚前（気づき前）は教材から確認する。
　（ここで多くの時間を取らない。確認するだけ。）
・触発者の視点で考える。
　（主人公から離れ，触発者の視点で考えてみる。）
・中心発問でねらいに迫る。
　（深める，揺さぶる，切り返す，問い直すなど，発問を工夫しねらいに迫る。時間をたっぷり取る。）
・まとめは生徒自身がする。→評価との関係
　（今回は17文字で気持ちをまとめさせた。）

教師の発問によって，生徒自身が自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深められるように支援した。

3 道徳授業を要とした計画的，発展的な指導

震災学習に関連させて，語り部による震災講話，炊き出し体験，地震を想定した避難訓練，地域クリーン作戦，神戸市独自教材（冊子『幸せ運ぼう』）を使った学習などを通じ，計画的，発展的な指導を行っている神戸市の中学校は多い。道徳授業を要とし，これらの教育活動を絡めていく中で，生徒たちは地域の一員としての役割を自覚し，自己存在感や自己有用感を高め，よりよく生きていこうとする内面の力を育んでいる。

展開例

内容項目：B「思いやり，感謝」

主題名	感謝の心に応える
教材名	塩むすび（『中学道徳　あすを生きる3』日本文教出版）
ねらい	多くの人々の善意により，日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んで周囲の思いに応えようとする実践意欲を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点と確認事項
導入	**1 東日本大震災の被害や避難所でのボランティアの写真・動画を見せる。**	◇導入は簡単に済ませる。 ◇災害等被災経験のある生徒に配慮をする。
展開	**2 教材「塩むすび」を読む。** 〈ストーリーの押さえ〉（確認作業） 確認①　登場人物。 確認②　「私」はどんな所で生活をしていたか。 確認③　避難所の状況。 確認④　避難所の仕事。 確認⑤　「私」が食事係になったとき，母に何と言ったか。 確認⑥　塩むすびのアイディアに「私」はどう思ったか。 **○「ありがとう。おいしかったよ。」と言われた「私」は，なぜ照れくさくてしかたなかったのでしょうか。** ・ありがとうって言われたら，やっぱりうれしい。 ・私は食事係として必要とされている。 〔驚き・喜び・充実感〕 ・係だからやっただけなのに。　・少しきまりが悪い。 ・もっとできるのに褒められて恥ずかしい。〔照れ・反省〕 **○おばさんの頑張りを見た「私」は，何を考えて「自分も何かしなくては」という気持ちになったのですか。** ・おばさんたちの思いやりや優しさに共感した。 ・避難所のことを心配し，行動する姿に圧倒された。 ・自身も被災しているのに人のために全力で取り組む姿に，感心し感動した。 ・自分のことしか考えていないことを反省した。 **◎なぜ「私」は食事係を勧めた母に感謝したのですか。** ・やってみなければわからないことがあった。次も挑戦する気持ちが湧いた。 ・人のために活動し喜ばれてうれしくなった。 ・たいへんなときにこそ人のために行動をすると自分が元気になる。	◇教師が範読をする。 ◇教材からそのまま読み取らせる。 ①・私（主人公）　・母　・祖母 ・避難所の人々　・食事係のおばさんたち ②・小学校の体育館　・窮屈な生活スペース ③・入れ替わりが激しい。・今は70名程度。 ④・朝のゴミ捨て　・掃除 ・支援物資の運搬，積み込み ・入浴施設の清掃 ・食事の準備（一番たいへん） ⑤「学校が始まるんだよ。忙しいんだからね。」 ⑥「もっと早起きして集まるの。……具ものりもないおにぎりなんておいしいのかな。」 ◇「私」になりきって，心の動きや気持ちを考えさせる。 ◇おばさんたち（先崎さん，高橋さん，大和田さん）の行動を教材より確認する。 **【深める発問】** ◇おばさんたちは「私」を触発しようとは思っていない。けれども「私」は，おばさんたちの行動から気づいた。なぜ気づくことができたのか。 ⇨「共感力」「想像力」があった。 ◇食事係の仕事を通じて，人間としてよりよく生きていこうとする「私」の心の変化，周りの人々に支えられて今の自分があるという感謝の心と，周りからの感謝に応えようとする主人公の姿に気づかせる。
終末	**3 本時の感想を道徳ノートに記入する。** 「17文字」で気持ちを表現する。	◇心の置きどころが変わると，物の見方や住む世界ががらりと変わることを押さえる。

こんなコト，聞いてみました！

新コーナー

今回のテーマ

心に残っている道徳の授業は？

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり，励みになったり。これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

いい努力，悪い努力

沖縄市立山内中学校　教諭　**比嘉 さつき**

「人は何かを始めるとき，神様から『努力のつぼ』を贈られるのよ。それは目には見えなくて，達成したときに初めてつぼの大きさがわかるのよ。」

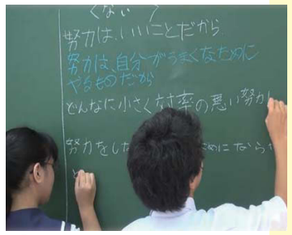
母親からそんな素敵な話をしてもらう少女の作文で授業をしました。

いろいろな授業展開ができる教材です。授業では「つぼの中身」について考えました。

「はたして，つぼの中に詰め込んだ『努力』はすべて『いいもの』なのだろうか？」という私の言葉に，生徒が悩み始めます。「悪い努力があるなら誰も努力しなくなる」「目標が達成できたのだから最終的にはいい努力になる」「でも，その目標が間違っていたら？」授業は盛り上がりました。

「努力は一生懸命やることだけど，同じ一生懸命でもバスケの練習を一生懸命やることと，人を傷つけることに一生懸命になることは違う気がする」と発言した女子生徒は，小学生の頃に友達に意地悪したことを思い出して，「努力には種類がある」と道徳ノートにまとめていました。また，勉強が苦手な野球少年は，「うまくなりたくてキャッチボールの練習をひたすらやった。でも，それで人をけがをさせたことがある。これはいい努力かな？」と書いていました。

努力の多様性を知ることで，挫折に負けないしなやかな思考を育んでほしいと願って行った授業。教師である私も正解をもたない一個人として，生徒と対話を楽しんだ授業になりました。



「悪い努力はない」派の意見を書く様子

「心に残っている道徳の授業は？」

大阪成蹊大学　教授　**服部 敬一**

そんなふうに聞かれると，「これまで私が作った授業のすべて」と答えたくなります。

私にとって，授業（指導案）は作品です。授業で用いる教材はすでにあるものですし，その教材を用いた指導案はほかにいくらでもあります。しかし，同じ教材であっても，それを生かしてどのような授業を作るかは教師次第です。つまり，授業という一つの作品を作り上げるためには，教材を深く分析し，善悪や人間についてじっくり考え，そして，それらを論理的に結びつけながら考えていくわけです。その時間は非常にたいへんですが，とても楽しい時間でもあります。このようにしてでき上がった授業は，細かな部分も含めて熟考と工夫，閃きと裏づけの産物であり，そこには，今までほかの誰も見つけられなかった視点が多く盛り込まれています。

このようにして，一つひとつ作ってきた授業ですから，すべてが心に残っているのです。もちろん，どれだけ考え抜いて作った指導案であっても，実際に授業をしたときには思ったように子どもが活動しないこともあります。しかし，それはまだ工夫したり，改善したりする余地があるということであって，改善を重ねるたびに授業は進化していきます。

ただ，それらの中のどれが心に残っているかと聞かれれば，必ずしも改善後の指導案ばかりではありません。初期の指導案には生み出したときの苦労や喜びがあるからです。例えるならば，現在の新幹線は速さも安全性も快適性もすばらしいですが，初期の新幹線の発明がなければできていないのと同様です。これまでに多くの授業を創造し，見直し，改善してきましたが，どれも心に残っています。

地球の仲間からのメッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長　長瀬 健二郎

命の不思議

私は植物を育てるのがとても下手です。これまで最も長く世話できたのはガジュマルで，それでも３年でした。買ってきて３年目に突入したときは，ガッツポーズをするくらい喜んだのですが，そのあと，あれよあれよという間に精気を失ってゆき，ついには枯れてしまいました。その理由を自分なりに考えたのですが，結論としては単なる水の与え過ぎであったようです。

動物を飼育する上でエサを与えることが大事なのは当たり前ですが，水を与えることも同じくらい重要です。しかし，園芸番組を観ていると，土の表面が乾いたら与えるとか，果実の甘みを増すためにはわざと水を与えないとか，植物と動物とでは水の与え方がだいぶ違うようです。それなのに私はついつい動物と同じように考えてしまっていたようです。

昨年秋，キャリーケースの車輪に米粒の倍ほどの真っ白な種が数粒挟まっているのに気づきました。もう種をまく時期ではないので発芽しないだろうし，もし発芽しても長生きはできないだろうとは思っていたのですが，何の種か知りたくてまいてしまいました。

▲ナンキンハゼの種

▲春に芽吹いたナンキンハゼ

そのうち２粒だけ発芽し，ナンキンハゼという，よく街路樹として植えられている木であることがわかりました。しかし，やはり寒さのせいか，葉はすべて落ち，ついには縮んで土に刺さった爪楊枝のようになって枯れて死んでしまいました。

やはり無理だったなあ，春を待ってまいてやるべきだったなあ，と反省したのですが，今年の４月中旬，忘れて放置していた爪楊枝に，何やら精気が回復してきたことに気づきました。まさか，とは思いながら水を与えました。するとそれまで茶色に枯れていた爪楊枝はあっという間に緑色が回復し，それどころか葉まで出てきたのです。毎朝，水を与えることが楽しみになりました。すると２本が回復しただけではなく，まだ芽を出していなかったほかの種も次々と発芽を始めたのです。今では植木鉢の中はちょっとした林のようにナンキンハゼの若木がひしめき合っています。

植物と動物は同じ生命ではありながら，その生態に大きな違いがあることを，今回身をもって知ることができました。深海の熱水噴出孔に生息する細菌の中には，高熱と高圧，そして硫黄がなければ死んでしまうものまでいるそうです。まだまだ知らない生物の世界がある，そんな命の不思議を知ることで一段と生命に対する興味がふつふつと湧いてきました。偶然出会った数粒の種のおかげで毎朝わくわくする思いです。

▲秋に美しく色づくナンキンハゼ